



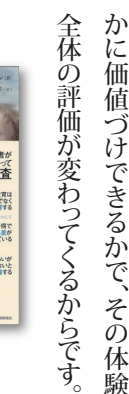
どう伸ばす!?
これからの子どもに必要な

非認知能力

いま、教育界で注目されているキーワード「非認知能力」。
読み書きできる、計算できるといったIQなどで測れる
「認知能力」と違い、向上心や粘り強さ、
コミュニケーション能力など、数値化できない力を
「非認知能力」といい、「社会情動的能力」とも呼ばれます。
2000年にノーベル経済学賞を受賞した、
アメリカのジェームズ・J・ヘックマン教授が提唱した概念で
世界各国で注目を集めています。

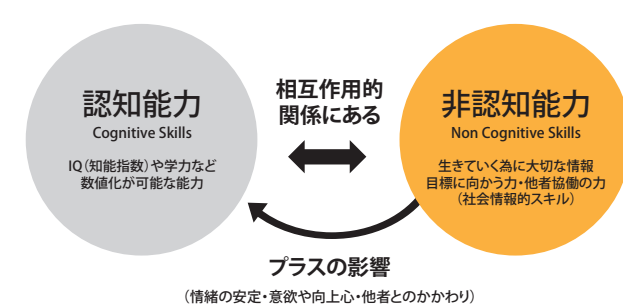


これまでで私たち大人は、テストの
点数などで結果が見えやすい「認知
能力」を重視しがちでした。しかし、
前号(カンコータイムズ第9号)でも
「Society 5.0※1」につい
て特集したように、社会の変革を見
すえ、今後は「AI」にできなくて、人
間にはできないことを伸ばす教
育が求められます。向上心や粘り強
さ、コミュニケーション能力などと
いった「非認知能力」は、まさにこの
「人間にしかできないこと」に多く当
てはまるのです。



非認知能力についての書籍も出版され、
教育界から注目の的

数値化できる認知能力と、生きて
いくために大切な非認知能力は、相
互作用的な関係にあることも忘れ
てはなりません。たとえばIQとい
う認知能力は、就学時にはある程度
安定すると言われています。にも関
わらず、それほどIQの高くなかつ
た子どもの成績が高学年で伸びた
りするのは、非認知能力が関係して
いるとされています。また、認知能
力がつくとき自信が生まれ、目標達成
や他者との関わりにもより積極的
になり、非認知能力に好影響を与え
ます。自動車に例えるなら、認知能
力というエンジンだけが優秀でも、
非認知能力というタイヤがないと
うまく走れません。2つの能力をい
かにバランスよく育むかが、今後の
教育の力ギと言えるでしょう。



新大学入試や未来の
社会で重要になる
非認知能力

非認知能力を
育てるため大人たちに
できることは

認知能力と
非認知能力は互いに
作用しあっている

※1 Society 5.0…日本政府が「第5期科学技術基本計画」の中で提唱した、日本が目指すべき未来の社会の姿。テクノロジーを活用して、地域や情報を共有できる超スマート社会。 ※2 文部科学省「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(2018)より

「結局、手作業がマシ」と
まだ思いですか？

近年は各校の取り組みが多様化
し、時間割の要素が複雑になっ
てき

機能を提供している。とばかりつ
担当者が異動しても引き継ぎが簡
単。分かりやすいマニュアルがあ
り、不明点はカスタマー窓口にお問
合わせいただけます。さらに、シ
ステムはクラウド上にあるため、年々
バージョンアップして古くなるこ
とがありません。と、なだめも簡単
に、長くお使いいただける「コマわ
り君」です。結局、手作業のほうが早
いんじゃないかと思ってしまう、そんな
先生こそ是非お試しください。

コマわり君

で先生のお悩みを解決！

時間割作成補助システム

コマわり君とは？

毎年、年度末にやってくる苦痛な時間。次年度準備などの他の業務に
時間を充てたいのに時間割作成に多くの時間が費やされてしまう・・・。
そんな先生方の悩みを解決し、「働き方改革」につながる新システムを開発しました。

こんなことで
お困りでは？

毎年、一から作り直し、前年度の
情報が引き継がれていない。

1回入力すれば
次年度からは
チェック、微修正OK。

各主任、教務の
取りまとめが大変。

メール配信、
チェック機能が
あります。

条件を変更して
組み直すのが手間。

シミュレーションで
案に、変えたくない
条件はロックできます。



詳しくは右記のHP、
またはQRコードで検索してください。

<https://k-manabonect.co.jp/product/komawarikun/>



一般社団法人
教育ソリューション研究協議会



発行：一般社団法人 教育ソリューション研究協議会 運営事務局 カンコータイムズ編集部
カンコーマナビネクト株式会社内
Email: info@esc.or.jp TEL: 086(280)8585 FAX: 086(283)2860

ご意見・ご感想、取材のご希望についてはメールアドレスもしくはWEBにて受付を行っております。カンコータイムズはこれからも不定期に発行していきます。次号をお楽しみに。 カンコータイムズ 臨時号 2019年11月発行



※SDGs…2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界の実現に向けて世界各国が取り組むべき目標。社会や経済、地球環境について、17の目標と169のターゲットから構成されています。



1年生によるポスターセッション

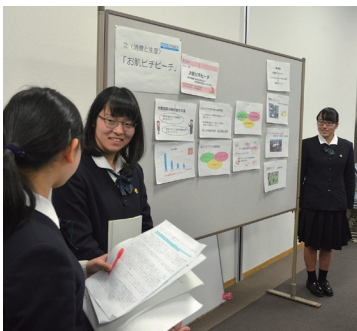
たえば2年生のあるチームは、SDGsの目標12「持続可能な消費と生産のパターン」を確保するの皮を有効活用して廃棄ロスを減らすことを考え、化粧品製造メーカーの協力のもと、皮から抽出した桃エキスを配合した美肌クリームを試作しました。さらに別の会社の協



代表グループによるステージ上でのセッション

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 教育
全ての始まりは赤福から | 5 経済
みわとコラボりりりー |
| 2 経済
お肌チビーチ | 6 防災
南海トラフに備える |
| 3 ジェンダー
あなたの知らない性別の世界 | 7 福祉
食べることは生きること |
| 4 生活
カンガルーワーク推進隊 | |

発表グループ



課題研究プレゼンテーション

瀬戸高校では「総合的な学習の時間」を活用し、1・2年次を対象とした独自の課題探究プログラムに

1年次から2年次へ、視野を広げながら課題探究

取り組んでいます。1年次の課題探究は、名付けて「セト☆ラボ。地元」の役所や企業から聴き取った地域課題について具体的な提案を考え

地域や企業と協働した成果をセッションの場で発表

たとえば2年生のあるチームは、SDGsの目標12「持続可能な消費と生産のパターン」を確保するの皮を有効活用して廃棄ロスを減らすことを考え、化粧品製造メーカーの協力のもと、皮から抽出した桃エキスを配合した美肌クリームを試



2年生のSDGsに沿ったKP法セッション

力を得て、マーケティングの基本について学び、実際に商品化するまでの仕組みを現実的に考えました。どのチームも、3〜4人の少人数

2019年2月6日には、こ

校外からも教育関係者や企業の方々が多く来校しました。各教室

で、1年生はポスターセッション、2年生はKP法(紙芝居プレゼンテーション法)によるセッションを実施

また体育館では、代表グループによるステージ上でのセッションや、識者による講演会、SDGについて

のレクチャー、社会変革について話し合うパネルディスカッションなども行

われました。

キャリア教育レポート

岡山県立 瀬戸高等学校

課題研究↓セッションで「6つの力」を伸ばす。

1909年に瀬戸実科女学校として設立され、1948年に瀬戸高等学校として男女共学化。2年生以降に選択する「文型」と「理型」の2コースを設置。キャリア教育に注力し、外部講師を招く授業を1年次から行っている。

非認知能力をテーマに未来のひとづくりを考える。

2019年2月9日(土) 13:00~16:00

御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

2019年2月、「未来を生きる子どもたちに必要な力とは？」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。当社団理事の生重 幸恵をファシリテーター役として、有識者の方々から未来に向け、今の子どもたちが伸ばすべき非認知能力について解説いただくとともに、「いま大人がすべきことは何か」を会場の皆さまと共に考える場となりました。

第1部 トークセッション

第1部では「非認知能力の重要性」と題したトークセッションを展開。パネリストの方々の提言をダイジェストでご紹介します。



大阪大学大学院 経済学研究科 教授
大竹 文雄 氏

この先、人工知能が人間の仕事を代替していく中で、AIが苦手な対人コミュニケーションやアイデア創出などが人間の仕事として残ってきます。そこで、こうした仕事に必要な非認知能力を伸ばすことが重要になってくるわけです。また、非認知能力が高ければ、たとえ所得が低くても幸福感が高くなるということが明らかになっています。これからの時代は「経済の豊かさ」だけではない観点から、認知能力・非認知能力、両方の育成を考えていくことが必要だと考えています。



岡山大学 全学教育 学生支援機構 准教授
中山 芳一 氏

家に喩えると、自己肯定感は土台となり、知識・技能などの認知能力は天井や窓になります。そして知識・技能をしっかり支えるための柱や筋交いが非認知能力です。そのため、非認知能力の育成は必要不可欠となります。特に、自制心などの自分と向き合う力、意欲などの自分を高める力、共感性などの他者とな



特定非営利活動法人 アスクネット 前代表理事
白上 昌子 氏

高校生のインターンシップ体験を企業とコラボして展開したことがあります。人と関わるのが苦手だった生徒が、チームワークの重要性に気づき、自尊心を高め、大学進学

第2部 パネルディスカッション

第2部は「今、大人たちにできること」をテーマとしたパネルディスカッション。スマホなどを使って簡単に参加できるアンケートシステム「Respon」を使って来場者から寄せられた質問に対し、パネリストがリアルタイムで回答しました。その内容を一部ご紹介します。

質疑 Society5.0やSDGsが、どう大事なのか教えてください。

応答 すでにAIが活用されている分野は数多くあります。囲碁将棋、自動運転、医療の画像診断など。その共通点は「ルールがはっきりしていること」です。Society5.0の社会では、こうした分野ではAIに太刀打ちできません。逆に、変化や状況に臨機応変に対応するという、AIが苦手な能力を人間が磨き続けることが大事だと思います。SDGsについては、これに企業が一生懸命取り組んでいる理由は社会貢献であり、その姿勢をPRするため。また、SGDsを大切にしている企業に入りたいという人材は、利他性や貢献性が高いという実験結果も出ています。今後、企業はSDGsをさらに重要視するようになるでしょう。(大竹教授)

質疑 非認知能力の伸びを把握するための方法とは？

応答 扱われているのは、乳幼児保育領域といっても過言ではないでしょう。なぜなら保育領域では、学校の教科教育のように認知的なゴールやステップが明確ではありません。だからこそ、生活や遊びの中で子どもたちが見せてくれる姿(エピソード)をいかに把握する(見取る)かが、保育士に求められる重要な専門性の一つとされています。ぜひ、保育領域の評価方法を参考してみてください。また、どんな非認知能力を育てたいかという目標を曖昧にしないことが大切です。そこを明確にして子どもたちのプロセスからしっかり見取っていかなければ、次の支援にはつながりにくいと思います。(中山准教授)

質疑 非認知能力が育っていると感じるのとはどんな時？

応答 高校生たちがインターンシップでIT企業に行った時のことです。メンバーが別々のタスクに分かれて作業していたのですが、もともとコミュニケーション能力や理解力に不安があった生徒の作業が家の定、遅れ出しました。次第に「あの子、何なの」という空気が漂ってきた時、それまで黙々と個人作業をやっていた一人の生徒が手伝いはじめ、一気に「みんなでインターンシップを盛り上げよう」という雰囲気になったのです。最後は時間ギリギリまで、全員で力を含めてやっていました。非認知能力を育てる場面では、みんながみんな4番打者じゃなくっていい。助けがあれば伸びられます。そして、課題や困難が生じた時こそ、人間が本来持っている力が引き伸ばされるのだと思います。(白上氏)

第3部 コンテンツ紹介

カンコーが独自に開発した、非認知能力育成プログラム「NCS」、アクティブラーニング型学習プログラム「Ancs」、部活動をキャリア教育につなげるプログラム「部活のチカラ」などを会場外に展示。同時に、シンポジウムで登壇された先生方の著書もご紹介しました。来場者の方々も多くが興味を持たれ、パネルディスカッション終了後も大盛況でした。



来場者の声 シンポジウム終了後の参加者アンケートより抜粋

- 自分の弱いポイントを認識し、対策を立てられるように導くのが教育、というお話が印象的でした。現在、私は新入社員
- 今、自分がやろうとしていることが間違っていないことを確認でき、今後の活動へのモチベーションが上がりました。ありがとうございます。